



「マルタの冒険くステキな園の一日」

#1「サクラノボル」



1、春の穏やかな陽射しが、  
ニンジン保育園のお庭を照らしています。  
満開になった大きなサクラの木からは、  
桃色の花びらがヒラヒラと舞い降りています。

お庭では、マルタたちの明るく元気な声が  
聞こえています。

モン吉は、大きなサクラの木を  
見上げています。

木登りがしたいようです。

お兄ちゃん達が楽しそうに木登りしていたのを  
見たことがあります。

けれども、小さなモン吉にはまだ登ることが  
できません。

サクラを見上げているだけでした。



2、夏がきました。

ニンジン保育園の草や木は、  
青々として元気いっぱいです。

モン吉は、大きなサクラの木には  
まだ登れないので、  
まずは小さな木から  
登ってみることにしました。



3、腕を大きく伸ばして木にしがみついたり、足をひっかけたりと、一生懸命です。そんなモン吉のようすを見ていたマルタたちは、いつの間にか一緒に木登りを楽しむようになりました。



4、ある日、モン吉がマルタたちと小さな木で遊んでいるうちに、なんとか小さな木になら登れるようになっていました。

マルタたちから、「おめでとう」の拍手がありました。嬉しくなったモン吉は、少しずつ登る木を大きくしていきました。



5、秋になりました。

木々の葉が、赤や黄に色を染めています。

モン吉は、春に見上げていた

大きなサクラの木の下にいました。

その周りにはマルタたちが木を囲んで

モン吉を見つめています。

とうとう大きなサクラの木に

挑戦する日がきたのです。



6、マルタはモン吉に声をかけました。

「モン吉がんばれー！」

モン吉は照れくさそうにうなずくと、  
一度、深呼吸をしました。



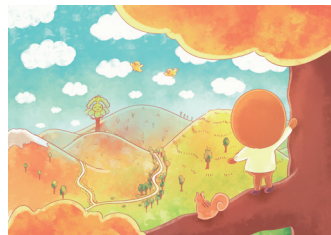
7、木に手を伸ばしてギュッとつかまり、足をひっかけ、一歩一歩登っていきました。登れるかもしれない。

モン吉は、春から練習してきたことを思い出し、「できるはず、きっとできる」  
そう思いながら登りました。





8、マルタたちの応援する声が、  
木を登っていく力になって、  
モン吉は気がつくとサクラの木のてっぺんに  
たどり着いていました。  
マルタたちは大喜びで見上げています。



9、そんなモン吉は、

頂上から見える景色を眺めながら  
驚いていました。

大きいと思っていた桜の木よりも、  
はるかに大きな木が遠くの山々に  
たくさんあったからです。



10、サクラの木から降りたモン吉を、

マルタたちが笑顔で迎えてくれました。

モン吉は、頭をかきながら照れくさそうに  
笑うのでした。

「やればできる！」

モン吉は、そう思ったのでした。